2020年3月2日

各　位

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

2020年 2月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	81.9
阪神梅田本店	80.1
支店計	135.8
全店計	98.2

※神戸阪急、高槻阪急は本年実績のみ。

○ 全店の概況

- 新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽの感染拡大の影響で入店客数・売上高ともに大幅に減少した。既存店売上高前年比86%。
- ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ売上は、春節期間が1月に前倒しした影響も加わり、大幅に減少した結果、売上高前年比32%。
- 国内売上は、外出の手控えや通勤客の減少などにより、売上高前年比92%。消費ﾏｲﾝﾄﾞの回復が見られた1月から一転し、新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽのﾏｲﾅｽ影響を受ける結果となった。特に、60代以上の高齢者や子供連れﾌｧﾐﾘｰの来店減少が目立つ。
- 店舗の立地別状況では、都市型店舗への影響が大きく、売上高前年比83%。一方、食品ｼｪｱが高く、都心への外出手控えの代替となっている郊外型店舗へのﾏｲﾅｽ影響は少なく、売上高前年比97%。
- 支店は既存店12店舗のうち6店舗が前年未達となったものの、改装効果の高い高槻阪急は、入店客数増の影響により、売上は堅調に推移し、5ヶ月連続で前年を上回っている。

○ 阪急本店の概況

- ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ売上は、化粧品など消耗品に対するﾏｲﾅｽ幅が大きく、売上高前年比27%。
- 全館的に客数が減少し、入店客数前年比83%。ﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝ商戦が、期間中の売上高約25億円と過去最高を記録。
- 高額品は、売場改装中による面積減の影響があるものの、外商の富裕層顧客の大口需要が堅調な動き。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2018年度		2019年度										
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
阪急本店	104.7	103.6	104.6	100.4	107.6	103.8	106.7	129.5	84.2	94.1	94.5	98.6	81.9
阪神梅田本店	96.9	89.9	84.9	100.5	79.1	95.9	96.4	121.7	84.9	93.4	94.2	97.5	80.1
支店計	97.2	99.9	101.2	99.7	102.0	97.9	97.8	107.2	124.7	133.7	136.1	132.1	135.8
全社計	101.2	100.7	101.0	100.2	101.8	101.0	102.5	121.3	97.5	107.4	108.0	110.2	98.2
既存店計※									85.5	94.6	95.4	98.2	85.7

※神戸・高槻阪急を除く

■ 食品事業

イズミヤ	売上高前年比(%)
全 社 計	100.5

阪急オアシス	売上高前年比(%)
全 社 計	103.0

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問合せ先＞
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社　広報室　TEL:06-6367-3181